

令和6年度第3回狭山市社会教育委員会議 会議録

開催日時 令和6年10月1日(火) 14時から16時まで
開催場所 狭山市立中央公民館 第2ホール
出席者 石塚委員 宮地委員 八瀬邊委員 佐野委員 鈴木委員 角田委員
中間委員 河口委員 上西委員 栗原委員 片山委員 太田委員
品田委員 長谷川委員 渡邊委員 菅野委員 田中委員 柴野委員
平岡委員
欠席者 恵比須委員
事務局 五十嵐生涯学習部長
石井社会教育課長 小高 山口 立花 小暮 三ツ木
傍聴者 0名

1 開 会

2 生涯学習部長あいさつ

3 議長あいさつ

4 議事

(1) 第4次狭山市教育振興基本計画のアンケートについて

事前に「狭山市の教育・生涯学習・スポーツに関するアンケート調査(案)」を委員に送付し、意見をいただいていたものに対する回答を事務局より行った。

委員 一般用アンケートの問18についてだが、生涯学習で学んだことをどう活かすかというのは非常に重要なファクターと考えている。その設問に対してアンケート(案)の選択肢は平面的に感じられるため、しっかりとした選択肢を示したうえでどのように活かしたいのかを聞いた方が効果的なのではないか。特に学校教育に対する市民の支援というものがこれからますます重要な意味を持つてくると思うので「学校支援に活かす」という独立した選択肢を設けることや「様々な施設(高齢者・障がい者等)などでのボランティア活動」「日常生活が困難な高齢者の生活支援」など、アンケートに対する意見の際に出させてもらった設問を活かすような形で検討をお願いしたい。

事務局 項目については校正が必要と考えている。改めて調整をさせていただきたい。先ほど説明させていただいたものは「地域活動で活かす」と「インターネット(SNS)で誰かに伝える」というものが入る。記入者が選択をする際に間違いが生じないような設問で行いたいとは考えている。

委員 設問を増やすのは、時代に併せるものとして大事だが、どのような設問にするかは慎重に行った方が良く考える。また、問18の選択肢に関しては内閣府が行っている「生涯学習に関する世論調査」が参考になるのではないかと。

選択肢として使う言葉については、もう少し一般的な言葉にした方が良いのではないか。

5年に1度の調査であることから、経年分析ができるような選択肢を活かしつつ、新しいものを増やしていくのは大事だが、今まであったものは削らない方が良いと思う。

また、問10については、この設問でアンケートをしてきた経緯があるので、今回大きく文言を変更することは難しいと思うが、教育振興基本計画や生涯学習の計画に大きく影響することになるかと思うので、ここでいう学校教育とはなにかという共通理解をしておいたほうが良いと考える。また、リカレント教育やリスキリングが普及しているということは念頭に入れておいていただきたい。

委員 問18の選択肢に「インターネット（SNS）で誰かに伝える」の追加についてだがこれは方法論であり、ほかの選択肢の回答全てがインターネットを利用して行えることから、この選択肢については違和感がある。

事務局 再度調整する。

議長 アンケート作成に当たっては、平易な言葉を用いての作成をお願いしたい。

(2) 協議テーマ「地域の担い手としての当事者意識」について

事務局より協議の方針を説明したのち3グループに分かれて協議を行い、その内容を全体で共有を行った。

Aグループ 地域の見守り・防犯・防災・子ども食堂・伝統芸能・高齢者の見守り・地域で楽しめる行事等を行政・自治会・地域会議等が中心になって取り組んでいければという意見が出た。

Bグループ 農業支援・学校支援・子どもの見守り・高齢者の見守り・居場所作り・スポーツ体験・環境整備を地域住民みんなが担い手になる仕組み作りに取り組んでいければという意見が出た。

Cグループ 環境・防災・防災・伝統行事・世代間の交流を企業とのタイアップ・消防団・地域会議・専門分野の方・商店やサークルが中心になって取り組んでいければという意見が出た。

5 事務連絡

6 閉会 副議長